

令和 6 年度 学 校 自 己 評 価 シ ー ト

学校名 桜丘中学校・高等学校

「教育目標」		【スクールミッション】 学校生活・寮活動を通じて、人格を陶冶し、社会で輝く人物を育成する (グラデュエーション・ポリシー：育てたい人物像) 日本のパブリックスクールを目指し、グローバルリーダーを育成する。医進メディカルスクールの充実を図り、高い倫理・学力を持つ生徒を育成する。 (カリキュラム・ポリシー：教育活動) 知的創造・ハークネス・授業改善による主体的対話的深い学びに取り組む。クロムブックの導入に伴い ICT 教育の推進を図る。寮学習の体制強化、担任と寮監の連携強化、寮委員会の活性化。 (アドミッション・ポリシー：求める生徒像) 本校が育成する目指す人物像を自己目標としつつ、正しい倫理観・時代が求める力・文化芸術知性感性を身に付け正しい生活習慣を実践できる生徒。															
評価領域	目 標 及 び 実 績						行 動 プ ロ セ ス			学 校 自 己 評 価							
	当 初 申 告				達 成 状 況 申 告		※修正申告		行 動 プ ロ セ ス に 関 す る 着 眼 点	所 見 ・ 特 記 事 項		評 価	※修正評価				
	困 難 度	今 年 度 の 目 標		方 策 (目標達成に向けた具体的な手順や時期等)		目標の達成状況・方策の取組状況 次年度への課題		達 成 度		修 正 内 容			達 成 度	修 正 理 由	評 価		
I 教科指導等 指 導 計 画 の 作 成 ・ 改 善 学 習 指 導 と 評 価		○学習への取組み（学習習慣の定着） ○各種検定に合格するよう取り組む。 ○大学入試改革に伴う入試研究（校外研修を含めた授業研究） ○大学合格目標 ○ICT 教育の推進 以上については学力強化チーム ICT チームを中心に行動を進める		○第 1 段階の学習：中等部を対象に、寮で各自が自己学習出来る様各教科担任、寮監と各クラス担任が連携して指導・管理し、学習習慣の定着を図る。 ○第 2 段階の学習：高等部を中心に生徒の学習状況を把握するため「学習状況報告会」を設置して情報交換を行い、4・5・6 学年を通した指導方法を検討する。生徒が寮学習に積極的に取り組めるよう支援する。 ○第 3 段階の学習：希望する大学の入試傾向を掴み、教科指導・小論文対策指導に当たる。 ○クロムブック導入に伴い、ロイロノートの活用など ICT 教育の推進に努める。		デイリーテスト・ハーフタイムの取り組み・寮学習や小テストの状況を把握し、学習習慣の定着に努めた。 各種検定への取り組みは、事前に計画的に取り組み、生徒の状況に応じた検定への挑戦に取り組めた。 教科指導・小論文対策に進路指導部・6 年生（高校 3 年）学年団中心に取り組みをすすめて、大学受験へのサポートをすすめることが出来た。 ハークネステーブル・知的創造プログラムでは、中学卒業論文・4 年生（高校 1 年）ポスターセッション等成果が見られ、目標に沿って取り組むことができた。(3/13 木) ロイロノートを活用した研究授業（中学 1 年生）を実施し、研究を深めた。職員研修の開催 3 回。 電子黒板用黒板をすべての教室で更新した。次年度はプロジェクター整備をすすめて、授業研究に取り組む。		B			・生徒一人一人の学習状況を把握し、HR・ハーフタイム・寮学習の機会を通して、生徒の学力向上・検定取得のための取り組みを行っている。 ・生徒の実態や教科・科目等の系統性を踏まえた年間指導計画等を作成し、常に教材研究に努めている。 ・学習指導要領を踏まえ、適切な指導目標を設定している。 ・生徒の実態に即した指導が行われ、学習状況の把握、支援などが適切である。 ・教科・科目に関する専門的知識・技能が発揮され、生徒の理解を促進している。 ・ICT 機器推進に取り組んでいる。		教員のひとりひとりのマンパワーに頼ることなく、ベテラン教員の手法と若手教員の意欲を融合させ、より効果的な指導が展開されることを望む。 様々な情報を集め、ICT 教育をより一層推進する事。		B		
II 学年・HR 経営 寮指導		○基本的生活習慣の確立（問題行動の防止） ○安全・安心な寮生活の施設整備・充実を図る（環境を大切にする意識の啓発） ○進路希望の実現（6 年間を見通したキャリア教育の推進）		○生徒に基本的生活習慣や規範意識を身に付けさせるよう、寮監・正副担任・生徒指導及び人権担当が緊密な情報交換を取り、指導に当たる。寮委員会プロジェクト化を推進しリーダー育成を図る。 ○美化委員会を中心に施設・設備の利用の在り方等を考えさせ、清掃活動に対する啓発を徹底する。 ○転入生サポートチームを設置し、退学者を減らす取り組みを推進する。 ○大学受験知的活動の訴求に加え「ゆっくりペースで始める寮生活」などのメッセージを伝え受験率を上げる。		正副担任・寮監とともに生徒の委員会活動を活発にすすめて、基本的な生活習慣や規範意識の醸成に努めることができた。 生徒委員会活動を活性化し、環境美化をはじめ様々な日常生活での課題に取り組む、基本的な生活習慣に取り組む努力ができた。 転入生サポートチームなどにより、教員間の生徒の状況交換により、指導の共通性を図ることが出来た。		B			・学校・学年行事等を通じて、生徒の自主性・自律性育成やリーダー育成に取り組んでいる ・諸会議を実施し、教員間で学年運営上の課題を共有するなど、相互理解に努めている。 ・教育相談的な対応に心がけ、生徒理解に努めながら適切な生徒指導を行っている。 ・生徒の実態に応じ、進路選択ができるよう適切に支援している。 ・保護者との情報共有ならびに地域や様々な実施主体と連携して、指導している。		生徒の成功体験・帰属意識を高める活動をすすめて、ひとりひとりの居場所づくり・仲間づくりに取り組む必要がある。 生徒指導に当たっては「受容」「傾聴」「共感」を意識しカウンセリングマインドを持って進める必要がある。		B		
III その他の校務等 校務分掌等		○教職員の人権意識の啓発と生徒への人権教育の充実を図る ○保健指導の充実 ○防災・危機管理の徹底 ○保護者・地域等との連携を図り、情報公開を進める		○校内研修及び校外研修等への積極的な参加により教職員の人権に土気高揚を図る。 ○学校生活・寮生活で体調不良や心のケアを要する生徒について、養護教諭と教員との連携強化を図る。 ○学校防災計画に沿って、防災訓練や寮での避難訓練を実施し、避難方法等の周知徹底を図る。 ○生徒の出身地域単位の保護者会に出席し、情報提供や意見交換を積極的に行うとともに、部活動を中心に地域との交流を図る。また、HP を充実させ、情報提供を進め開かれた学校づくりを図る。		校内外の研修の機会や日ごろの業務（OJT）をとおして、教職員の意識の向上・技能を高めることが出来た。 担任・寮監の連携強化により生徒の心のケアに努めた。 関東保護者会に参加し、情報共有・意見交換に取り組んだ。 保護者への情報発信として、HP やインスタグラム等による取り組んだが、なお一層の取り組みが求められている。 いじめ、体罰、不適切指導など、課題が見受けられ、今後の改善を図る必要がある。		B			・教育に携わる者として、高い自覚を持ち、法令順守・コンプライアンスの徹底や公正を重んじた行動に努めている。 ・校務分掌の意義や自らの役割を理解し、職員間の共通認識を積極的に果たし、責任感を持って適切な活動に取り組んでいる。 ・分掌等の課題について改善策を示すなど、学校運営に参画している。 ・カウンセリングマインドを持ち生徒指導に当たっているか		各部署・担任団などでの情報共有や合意形成が必要である 法令順守・コンプライアンスを徹底した、教職員集団の形成が必要。		B		
教員のチームワーク行動 段階にABCを記入	1 学期（Ⅰ段階）	チームワーク行動に関する着眼点			評価	2 学期（Ⅱ段階）	チームワーク行動に関する着眼点			評価	総括（Ⅲ段階）	チームワーク行動に関する着眼点			評価	チームワーク行動における重点項目その他の取組状況	評価
		相手の立場や気持ちを理解し、日常的に円滑なコミュニケーションを取っている			B	生徒の状況や校務に関わる情報を共有し、積極的にコミュニケーションを取っている			B	チームの取組等を他の教職員や保護者等に発信するなど、信頼関係づくりを推進している			B	転入生サポートチームなどの取組により教職員間のコミュニケーションが図られた。			A
		学校経営の部分で、諸会議や職務遂行において、他の教職員の意見に耳を傾け積極的に協力して取り組んでいる			B	諸会議や職務遂行において、提案や改善に努め、意欲を持って主体的に取り組んでいる			B	諸会議や職務遂行において、進んで合意形成を図りながら、職務を円滑に遂行している			B				
		教育活動等の経験を継承するため、他の教職員から積極的に学ぼうとし、また教科間・分掌間で連携した取り組みを進めている			B	チームで協力して教育活動等の経験の蓄積に取り組んでいる			B	教育活動等の経験を伝承するため、他の教職員に対して進んで支援・助言を行っている			B				
		直接担当する業務以外でも、気付いたことがあれば積極的に行動している			B	管理職や他の教職員、保護者等と協力・協働し、チームワークづくりを推進している			B	広い視野から取組状況等を分析し、中長期的な視点で課題や対応方針を考えて行動している			B				